

海洋理工学会平成 28 年度春季大会プログラム

(会場)東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館

5 月 26 日(木) 13:00 – 17:40

シンポジウム「海洋開発に伴う環境計測の展望」

- 13:00-13:10 趣旨説明 川口 勝義(国立研究開発法人 海洋研究開発機構)
- 13:10-13:50 S1. 海洋開発における音を用いた生物計測
赤松 友成(国立研究開発法人 水産研究・教育機構)
今泉 智人(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産工学研究所)
- 13:50-14:30 S2. 海洋環境の評価と影響予測
山本 啓之(国立研究開発法人 海洋研究開発機構)
- 14:30-15:10 S3. 水中の可視化技術について
峯岸 宣遠(いであ株式会社)
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-16:00 S4. 投下式乱流微細構造プロファイラー (VMP-X) を用いた海底近傍における
乱流計測の試み 古島 靖夫(国立研究開発法人 海洋研究開発機構)
- 16:00-16:40 S5. 小型水温観測ブイを用いた観測網の現状と今後
中村 哲也(日油技研工業株式会社)
- 16:40-17:20 S6. 環境負荷低減型 eXpendable プロープの検討
雨池 健一(株式会社鶴見精機)
- 17:20-17:40 総合討論
- 18:00-19:30 イブニングセッション (東京海洋大学 食堂)

5 月 27 日(金) 9:50 – 16:30

一般講演

- 9:50-11:10 観測機器・手法開発 座長 (秋葉 龍郎)
-
- A1. カメラ付き曳航式採泥器の開発と運用
○飯島さつき(日本海洋事業)、坂本泉(東海大学海洋学部)、門馬大和(海洋研究開発機構)、
谷健一郎(国立科学博物館)
- A2. 光学技術がもたらす海底可視化
○石橋正二郎(海洋研究開発機構)
- A3. 加速度センサーを用いた魚類の摂餌行動解析ピンガーの開発
○堀江潤(京大院情報, アクアサウンド)、伊奈祐輔(京大院情報)、三田村啓理(京大院情
報, CREST, JST)、守屋和幸(京大院情報)、荒井修亮(京大フィールド研, CREST, JST)、
笹倉豊喜(アクアサウンド)
- A4. 大型水槽でのブイを用いた海面応力観測手法の構築
○鈴木直弥(近畿大学理工)、早稲田卓爾(東大院新領域)、Mark A. Donelan(マイアミ大)、
木下健(東大生産技研)

11:20-12:00 総会・学会賞表彰

12:00-13:00 昼休み

13:00-13:40 ポスターセッション

- P1. 東京湾リスク評価モデル (AIST-RAMTB Ver.3.0) の開発
○柳田圭悟・江里口知己 (サイエンスアンドテクノロジー)、林彬勲・堀口文男 (産業技術総合研究所)
- P2. 有害化学物質生物蓄積モデル (AIST-CBAM Ver4.0) の開発
○柳田圭悟・江里口知己 (サイエンスアンドテクノロジー)、堀口文男 (産業技術総合研究所)
- P3. 「ちきゅう」の新しい水中テレビシステム
○難波康広・石渡隼也・許正憲・門馬大和 (海洋研究開発機構)
- P4. *Oithona davisae* の遊泳・摂餌行動における雌雄差
○程 婉婷 (東京海洋大)、秋葉龍郎 (産業技術総合研究所)、田中祐志 (東京海洋大)

13:40-15:00 観測手法開発、観測結果解析 座長 (畑 恭子)

- A5. 四重極型質量分析計を用いた海水中溶存気体(N₂, O₂, Ar, CO₂)の同時定量システム(EI-MS)の開発
○小松大祐・松井壮・成田尚史・守屋洋 (東海大学海洋学部)
- A6. 東京湾での衛星データから推定したクロロフィル a 濃度の誤差要因の検討
○虎谷充浩 (東海大学工学部)
- A7. 汽水湖鷹架沼における密度躍層の形成と崩壊
○植田真司 (環境科学技術研究所)
- A8. 若狭湾における基本的流動パターンに関する数値解析
○楠木貴世志・中村 晶 (原子力安全システム研究所)、坪能和宏・門野美緒・石原靖文・矢部いつか (日本エヌ・ユー・エス)

15:00-15:10 休憩

15:10-16:30 生存戦略、生態系モデル 座長 (中田 喜三郎)

- A9. 水力的見地からみた *Oithona davisae* の生存戦略
○秋葉龍郎 (産業技術総合研究所)、劉 宝波・程 婉婷・張 峻徳・田中祐志 (東京海洋大)
- A10. 山形県鳥海山沿岸における海底湧水の低次生産への影響評価
○生田健吾・小林志保 (京都大学大学院農学研究科)、山田誠・本田尚美・谷口真人 (地球研)、杉本亮・富永修 (福井県立大学)、小路淳 (広島大学大学院生物圏)
- A11. 貧酸素の動態に伴うマクロベントス群集の斃死および加入を考慮した生態系モデルの開発に向けて
○橋口晴穂 (日本海洋生物研究所)、中田喜三郎・鈴木輝明 (名城大学)・今尾和正 (日本海洋生物研究所)、高倍昭洋 (名城大学)
- A12. 数値シミュレーションモデルを用いた陸域負荷と大阪湾のイカナゴ漁獲量の対応関係の解明
○阿部真己、畑恭子 (いであ)